
稲川家の人たち

ウエスギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

稲川家の人たち

【Nコード】

N3790T

【作者名】

ウエスギ

【あらすじ】

ちよつと変わった稲川家の人たちとその周りの人たちの心温まるハートフルコメディ。…だといいなあ。基本一話簡潔型です。不定期更新

棒人間の苦悩（前書き）

とりあえず書いてみました。半分寝ながら書いたので自分でもなに書いてるかわけわかんないです。

棒人間の苦悩

ういっす、オレ棒人間です。

いなかわおとめ

稲川乙女という稲川家の長女がよく妄想を書くときにこき使われます。

あの人高校生にもなって今だに思考が子どもなんすよ。

自分の部屋の机に向かって勉強するかと思いきや、5分後にはオレを使って「どかーん」やら「ずどーん」やら言ってるっすからね。

そんな可愛そうなオレなんですけど、実は深刻な悩みを抱えてまして…
ほら、オレって棒人間じゃないすか。

なんつーか、そんな細身の体の中に五臓六腑を敷き詰めてるワケで…
トーゼン血管なんて細いし血の量も多くないんすよね。

だがしかし、少し待ってほしいっす。

黙ってオレの頭見てくださいよ。

… 相対的におかしいっす！

完全にアンバランスじゃないっすか！

おかげで血のほとんどは頭にあるし血管細いから中々血が巡らないし…

よーするに酸素が足りないってことっす。

激しい運動とかぜってー無理っす！

だ・か・ら！

どかーんとかやめてくださいっす！

いっつも酸欠になって寝込むんですって！

あ、てかオレの体はそんな風に曲がらみぎゃああああああ！…

博識な御方（前書き）

二話連続投稿。もうストックはないです。

博識な御方

吾輩は猫である。

名前はまだない。

「なーに言ってるの吾郎さん。吾郎さんには吾郎さんて名前があるでしょー！」

「…主はもう少し空気を讀むべきだと思っぞ」

「みーちゃんにもよく言われるんだよねそれ」

稲川宅の縁側で一匹悟りを開こうとしていた吾輩の隣に押しかけてきたのは稲川家の天然担当である乙女であった。

ちなみに野良から拾われた恩から吾輩は乙女を主と呼んでおる。

ああ、そうそう。

吾輩は喋ることができない。

「…姉さんは何をしているんですか？」

縁側で主と暇を潰しておるとそんな声が聞こえた。

「あ、みーちゃん！今ね、吾郎さんに哲学を教えてもらってたんだよー！」

主がみーちゃんと呼ぶ相手は稲川家の良心ともいえる主の妹・実里である。

唯一稲川家の中でマトモな存在であり、それ故に色々と苦労をしておる。

「…今更猫が喋ることに一々驚きはしませんが、猫に哲学を教わ

る姉さんにはたぶん一生驚かされるのでしょ…ね…」

哀れ、実里。

「えーと、たしか水に熱い鉄を入れると水が温まる理由を教えてもらった気がする」

数分前に教えたことくらい覚えろ、主よ。

「姉さん、非常に言いにくいのですが、それはたぶん熱（力）学だと思えます」

「な、なんだってー!?!」

主に詰問される前にそそくさと逃げ出す吾輩。

…そついえば実里はまだ小学生なのに何故物理を知っていたのであろう。

博識な御方（後書き）

吾郎さんは一番のお気に入りです。

秋原葉の苦悩（前書き）

真性のバカの話。

秋原葉の苦悩

豊作高等学校。それが俺が毎日通う学校の名だ。

そのこの3年C組こそ俺のクラス！乙女ちゃんと一緒のクラス！いやっほい！

つてなわけで初っ端からテンション高めですんません。

あつ俺、秋原葉あきはら ちはるって言います。

某地名にめっちゃ似ているせいでアキバってあだ名で呼ばれてます、ハイ。

そして今窓際最後尾の俺の席の斜め前に座っている女の子こそ、俺の思い人である乙女ちゃん！

高1の入学式で一目惚れしてから去年まで違うクラスだったけど今年はずいと同じクラス！

ここまでの道のりは長かった…。

この学校は成績順でクラス分けされるから乙女ちゃんと同じ成績を取ることを努力してきた。

そのためには乙女ちゃんの成績の把握と成績を思い通りにできるほどの学力が必要不可欠だった。

幸いなことに俺は後者に関しては条件は既に満たしていた。

なんせ中学の頃は全国模試で常に100位をキープしていたからで、さらにこの学校には家から近いというだけで選んだためそこまで学力が高いところでもなかったのだ。

え？ご都合主義？知るかそんなの。

というわけで、あとは乙女ちゃんの成績を把握するのみ。

実はこれも簡単だった。

何故ならウチの学校はテストの度に全生徒の点数を公示しているからだ。

豊作高校万歳！

準備が整った俺は乙女ちゃんと同じ成績をとり続けた。

…あー乙女ちゃんは少しばかりドジなようで赤点が結構あったのだ。が、しかし、ここで問題が発生する。俺の成績を教師たちが不審に思ったのだ。まーそりゃそうだ。だって中学で全国100位以内の俺が高校では赤点ギリギリだからなー。

結果は一年間様子見ということで二年は上位の方のクラスに配属。だがこれで諦めない俺は粘り強く辛抱し続けた。そして！ついに俺は乙女ちゃんと同じクラスの座を掴んだのだッ！！

Fin

そんなこんなで現在に至る。
友人と喋っている乙女ちゃんマジ可愛い。
どんな内容かそつと聞き耳を立ててみた。

「乙女は昨日なにしてたの？」

「あのねー、五郎さんから哲学を教えてもらっていたんだよー」

「アンタが哲学ねえ…。正直アンタの生き様自体が哲学みたいなモノだとあたしは思うんだけど」

「あー！るーちゃんひどいー！」

「そもそも五郎さんって誰なの？初めて聞いた名前だけど」

「五郎さんはネコさんだよ」

「いや、意味わからんし」

「五郎さんのお話は面白いよー」

意味不明な受け答えがまたイイ！
でも乙女ちゃん！一つだけ教えたいことがあるんだ。

ネコは喋らないからね！

…秋葉、君は間違っていないよ。うん。

秋原葉の苦悩（後書き）

最後間違えて秋葉って書いたちゃったけどまあいいかなと思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3790t/>

稲川家の人たち

2011年10月8日12時51分発行